

☆情緒障がいのある子どもの教育における

## 合理的配慮の実践例



具体的にどんな実際の例があるの？

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のインクルDB<sup>\*1</sup>に様々な事例が紹介されています。障がいの程度や状態に合わせて合理的配慮が異なりますが、ここでは、**小・中学校の通常の学級、通級による指導、特別支援学級の実践例**から、一部紹介してみます。



### ①-1 教育内容

#### ①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

- 事例) ◆ 発声がなく、意思表示の難しい対象生徒に対し、全教科共通して、無理に声を出させるような指導はせず、通級による指導の自立活動の指導において、意思表示をするための代替手段の習得などの支援を行っている。
- ◆ 本人は他の生徒との接触が困難であるため、他の生徒と顔を合わせる事のないように登下校の時間の調整や、校内での移動経路について配慮している。

#### ①-1-2 学習内容の変更・調整

- 事例) ◆ 選択性かん黙のある生徒に、社会の授業では、一問一答式の問題を出す際に、本人に紙を渡し、書いて答えることができるようにした。
- ◆ 本人の苦手とする、人前で発表する方法について工夫をし、「教員が指名し板書することによる発表」の方法も取り入れるようにした。
- ◆ 本人は、学校では全く書けないので、テストや提出物は持ち帰り、家庭で記入して翌日に持ってくるようにしている。

### ①-2 教育方法

#### ①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

- 事例) ◆ 自己表現の苦手な対象児は、文章を書くことに困難があるので、必要な事項を穴埋め形式にし、書き込むことで文章の形になるようなプリントを用意した。
- ◆ 学校内で発声のない対象生徒とコミュニケーションをとる方法の一つとして、タブレット型端末を利用した。2～3台のタブレット型端末を利用し、本人と教員の間で、近距離無線通信機能によるチャットに挑戦した。筆談等の他の方法よりもスムーズに会話のやり取りを行うことができ、本人の気持ちを聞くことができた。
- ◆ 選択性かん黙の症状が強い対象児への支援として、「O×カード」を作成し、支援員が質問した内容が「はい」のときはOのカードを、「いいえ」のときは×のカードを指すように本人に指示しながら進めていった。

① 教育内容・方法

あくまでも実践例であり、個々の障がいの状態等により、合理的配慮の提供内容が異なります。

\* 1 : 『インクルDB』(<http://inclusive.nise.go.jp/>) は、インクルーシブ教育システム構築支援データベースとして、数多くの合理的配慮の実践事例がデータベース化されています。

あくまでも実践例であり、個々の障がいの状態等により、合理的配慮の提供内容が異なります。

**①-2-2 学習機会や体験の確保**

- 事例) ◆ 中学校では、2年生の時に、行事として立志式が行われ、体育館の舞台上で抱負を一言述べるという取り組みを行っている。発声が難しい対象生徒には、自宅で自分の抱負を述べることを録音してくるよう促し、それを流す形で、立志式に参加することができた。
- ◆ 本人は、校内で個別指導室以外の場所へ移動することができないでいた。理科室などの学習機会を確保できるように、他の生徒と会わないように安心して移動できるようにした。

**①-2-3 心理面・健康面の配慮**

- 事例) ◆ 対象生徒は急な予定の変更や活動の見通しがもてないと、気持ちが不安定になってしまう。そのため、その日の予定を明確にし、活動の見通しをもたせ、来客や予定の変更がある場合には事前に伝えるようにしている。
- ◆ 学級編制においては、対象生徒のことをよく理解し、声掛け等をしてくれる友人と同じ学級になるよう配慮し、本人が学級で孤立してしまうことがないようにした。

**②-1 専門性のある指導体制の整備**

- 事例) ◆ 通級指導教室、臨床心理士による定期的な巡回相談や、発達支援巡回相談員、特別支援学校教員による的確なアドバイスをもらうようにした。

**②-2 子ども、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮**

- 事例) ◆ 定期的に行われる職員会での事例報告を利用し、本人の実態や支援の在り方について全教員の共通理解を図っている。
- ◆ 保護者及び地域の方々にインクルーシブ教育システムの理解を深める機会を設けている。

**②-3 災害時等の支援体制の整備**

- 事例) ◆ 集団での避難訓練が難しいことから、個別に避難や注意事項を確認している。

**③-1 校内環境のバリアフリー化**

- 事例) ◆ 本人に特化したものはない。

**③-2 発達、障がいの状態及び特性に応じた指導ができる施設・設備の配慮**

- 事例) ◆ 対象生徒は他の生徒と接触することが困難であるため、本人専用の個別指導室を設けている。
- ◆ 対象児の座席を教員の目が届きやすく、サポートしてくれる親切な児童や、よいモデルとなる児童の横や前の席になるようにした。本人もこの条件を望んでいる。

**③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮**

- 事例) ◆ 本人に特化したものはない。

②  
支援体制

③  
施設・設備

障がいの有無にかかわらずに、最大限に力を発揮できる、みんなが学ぶ実感を得られる学校を創りましょう！

